

# 短期大学看護師2年課程（通信制）卒業生のキャリア意識の 変化に関する実態 ～卒業生と看護管理者から～

柳生 敏子  
中野 順子  
高宮 洋子  
長尾 厚子

## I. 研究目的

本学通信制課程の卒業生に対する先行研究では、卒業時の意識調査結果で、10年以上の勤務経験を有する准看護師が本学で学び、看護師資格を得ていくプロセスの中で、看護師としての看護に対する考え方や実践内容の変化、実践に用いる知識や思考の深まりなどの変化があることが確認された。今回の研究では、本学卒業後2年から4年を経過した看護師のキャリア意識の変化、経験年数による変化の実態、更に学生が入学時就業していた看護管理者を対象に、本学を卒業した看護師への評価と役割期待の実態を明らかにし、今後の教育実践に対する示唆を得ることとした。なお、本研究でキャリア意識とは、准看護師が看護師資格を取得する教育課程で身につける専門職としての意識と捉えている。

II. 調査方法：2010年5月～6月の期間、郵送による無記名自記式質問紙調査。

1. 対象：1) 2007～2009年に本学を卒業し看護師資格を取得した看護師で回答を得た274件。

2) 学生が入学時就業していた施設の看護管理者で回答を得た248件。

2. 内容：双方とも1) 回答者の背景に関する項目2) 看護に対する意識変化に関する項目について、看護に関する考え方の変化など8項目を二項択一とし、各々に自由記載の欄を設けた。

III. 分析方法：選択肢を設けた質問項目は集計し、自由記載は項目毎に質的研究を分析するプロセスを用いて研究者4名で協議し、コード化・カテゴリー化し、合意を得たものをデータとして使用した。更に卒業生については年度毎の内容を分析した。

IV. 倫理的配慮：本学研究倫理審査委員会の承認を得ている。

## V. 結果考察

卒業生の卒後の動向では、殆どが200床未満の施設で就業し、施設移動も少なくその職場に定着している。また、職位の変化や各種委員などの役割に就き、新入職員の指導に当たるなど役割を果たしている状況が伺えた。看護に対する意識の変化については、根拠に基づいた考え方や実践の変化が圧倒的に多く、学んだことで自信を持ち、対象を深く捉えるようになってきていることがわかった。次に看護管理者の調査では、在学中の支援体制が図られていたこと、職位の変更や責任を持たせるなどから、本学を卒業した看護師への役割期待が非常に高いことが伺えた。また、卒業生への評価では、看護に対する考え方の変化も同様に高く、看護観や対象の捉え方の深まり、根拠に基づいた考えや看護実践の向上に高い評価を得た。このことは、卒業生のキャリア意識の変化と一致しており、卒業生が「専門職業人として生きていくこと」つまりキャリア意識を持ち、看護師としてそれぞれの立場や役割の中での経験が意味あるものとして価値づけられていると言える。これらの成果は、本学における通信制課程の教育方法として、根拠に基づいた問題解決思考能力に重点を置いた、帰納的学習指導が浸透しているものによると考えられる。新人に対する指導や、研修会への参加、カンファレンスでの発言など、積極的な姿勢は専門職としての自信となっており、更に研究や進学への意欲に繋がっていることが双方の結果から伺えた。この研究の意義は、卒業生が職場に定着し、専門職者としてキャリア意識を向上させている事、看護管理者においてもそのことを同様に評価していることが明らかになったことである。更に本学通信制課程における教育の社会的貢献として、卒業生が地域に密着した施設で看護水準の向上に寄与していることが明らかになった。